

地域医療に関するシンポジウム

「知っていますか？ 下関の医療の現状と将来」

～市民のいのちをまもり、医療をまもる～

資料 2

# 下関市の医療の現状

令和3年3月6日（土）

於：下関市民会館

下関市保健部/下関保健所 九十九 悠太



保健部キャラクター  
こころん

# 本日の内容

## ■ 下関市の医療の現状について

- ① 下関医療圏の概観
- ② 医療提供体制
- ③ 救急医療の状況
- ④ 下関市の医療の現状まとめ

## ■ 下関市の新型コロナウイルス感染症の状況とワクチンについて

# ① 下関医療圏の概観

# 4つの入院機能について

医療提供体制を考える上で、医療機関の入院機能は4つの機能で整理されており、それぞれ提供する医療の専門性は異なる

## 急性期

### 高度急性期病床

救命救急病棟や集中治療室など

### 急性期病床

状態の早期安定化を目指す  
医療を提供

## 回復期

### 回復期病床

リハビリテーションや在宅復帰に  
向けた医療を提供

## 慢性期

### 慢性期病床

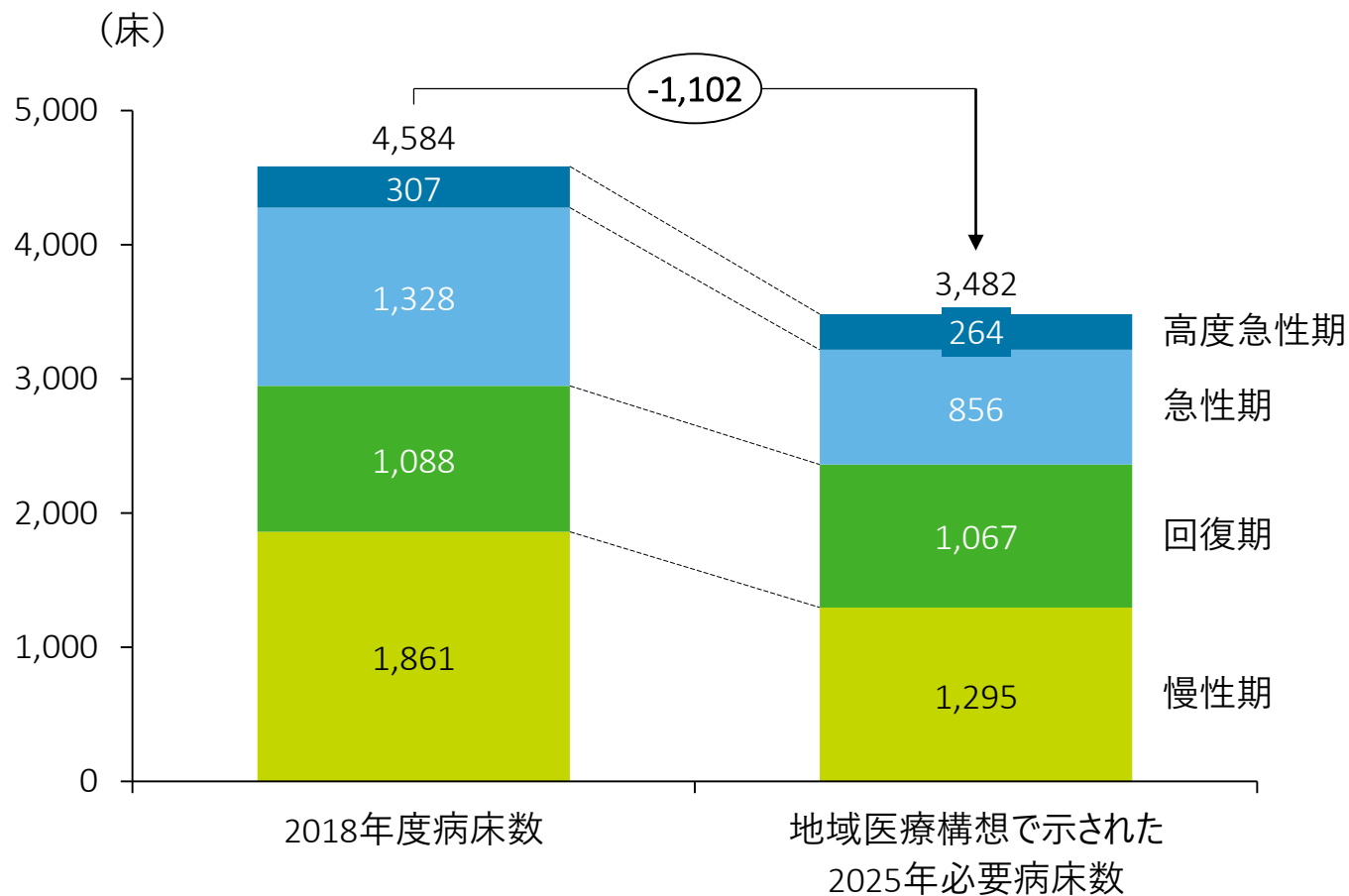
長期にわたる療養が必要な患者  
が入院できる機能

- ✓ それぞれの状態に必要な医療は異なるため、求められる専門知識や技術、設備も異なる。
- ✓ どの患者も、状態に即した適切な医療を適切な場所で受けられることを目指すため、**機能分化**が求められる。

# 既存病床数と必要病床数について

下関市の現在の病床数と、地域医療構想における2025年の必要病床数を比較すると、全ての医療機能において必要病床数を上回っている

## 地域医療構想の2025年必要病床数との対比

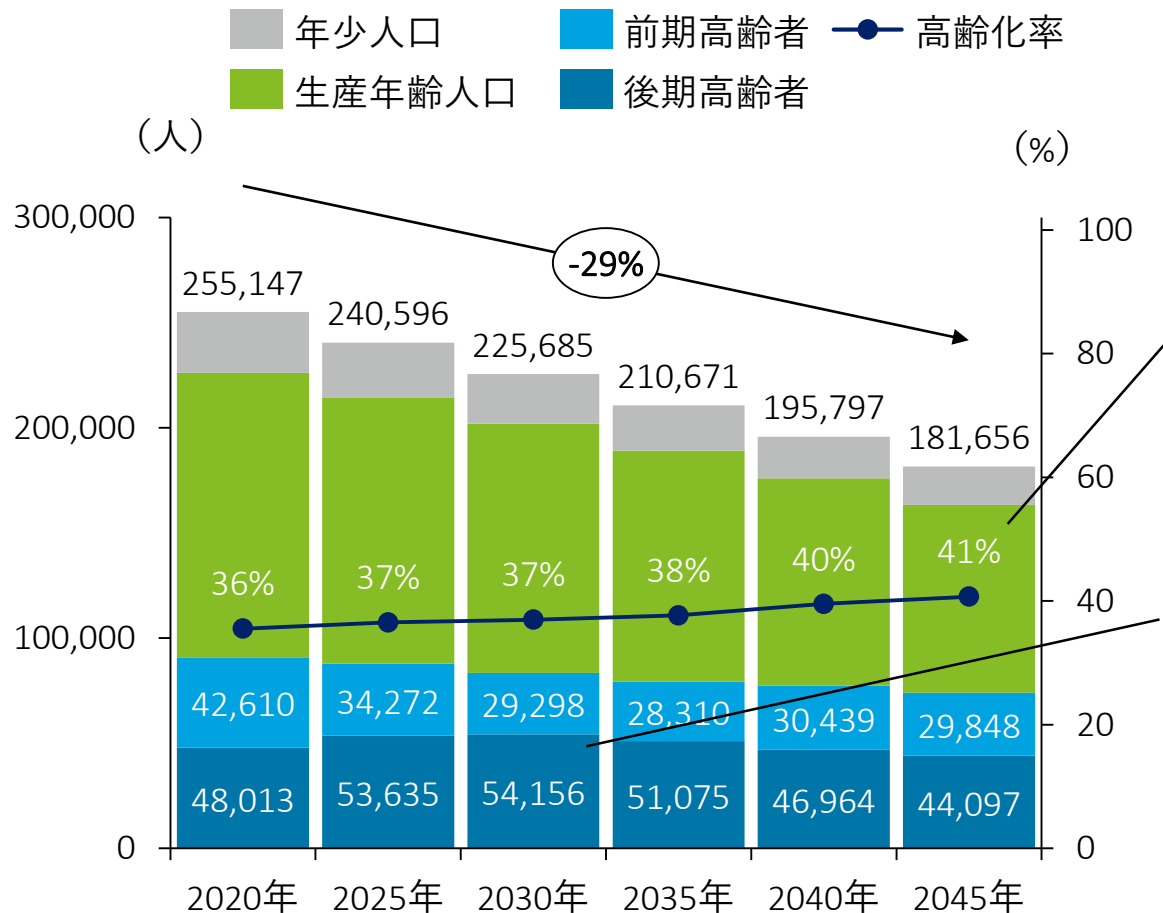


出所：山口県「平成30年度病床機能報告」、「山口県地域医療構想」

# 将来推計人口と医療需要について

総人口は減少。高齢化の進展により、生活習慣病や認知症等の基礎疾患を持つ高齢患者が増加することが予測される

## 下関市の将来推計人口及び医療需要



### ①生産年齢人口の大幅な減少

生産年齢人口の大幅な減少に伴い、医療の担い手である、医師、看護師等の医療従事者の確保が困難になることが予測される。

### ②高齢化の進展による疾患構成の変化

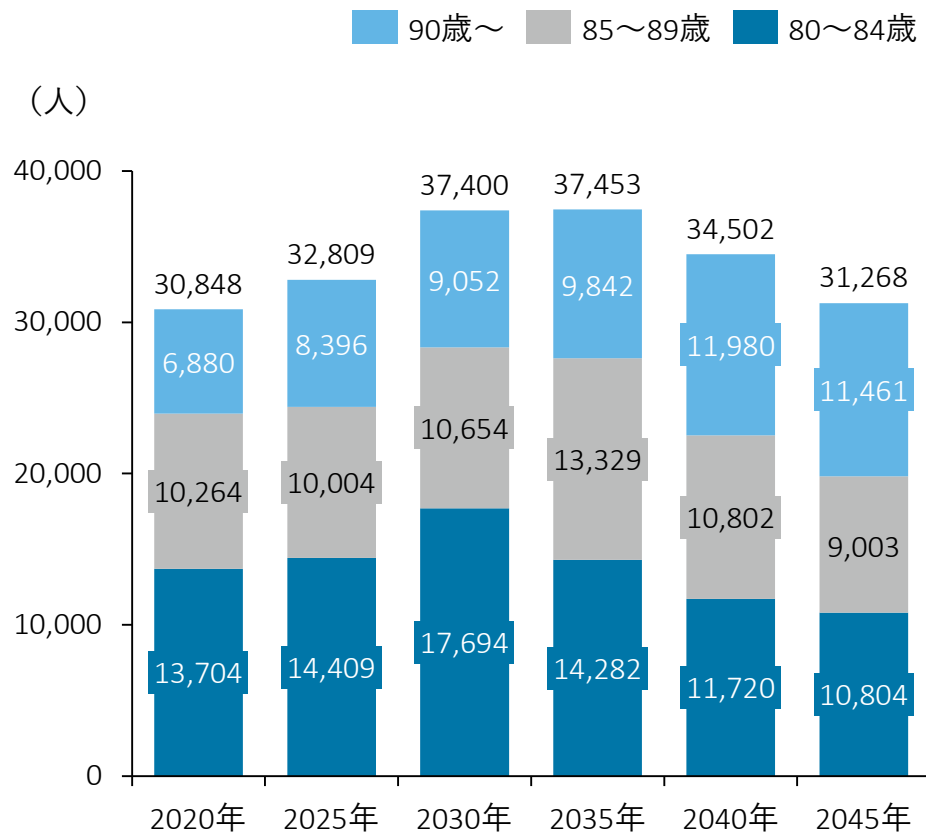
直近10年では、後期高齢者の人口が増加するため、高齢者に特徴的な認知症や生活習慣病を基礎疾患に持つ患者が増加することが予測される。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

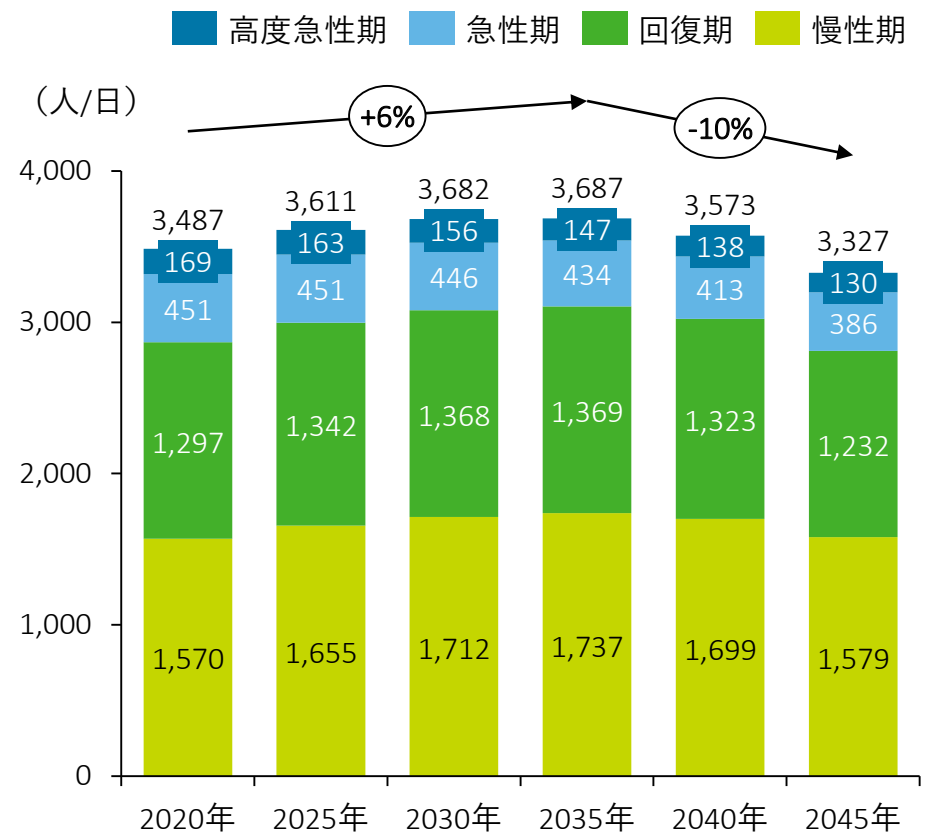
# 入院医療需要について

医療需要が高い80歳以上の人口増加の影響から、入院医療の需要は2035年にピークを迎え、その後10年間で10%減少することが予測される

## 下関市の80歳以上の将来推計人口



## 下関市の入院医療需要推計

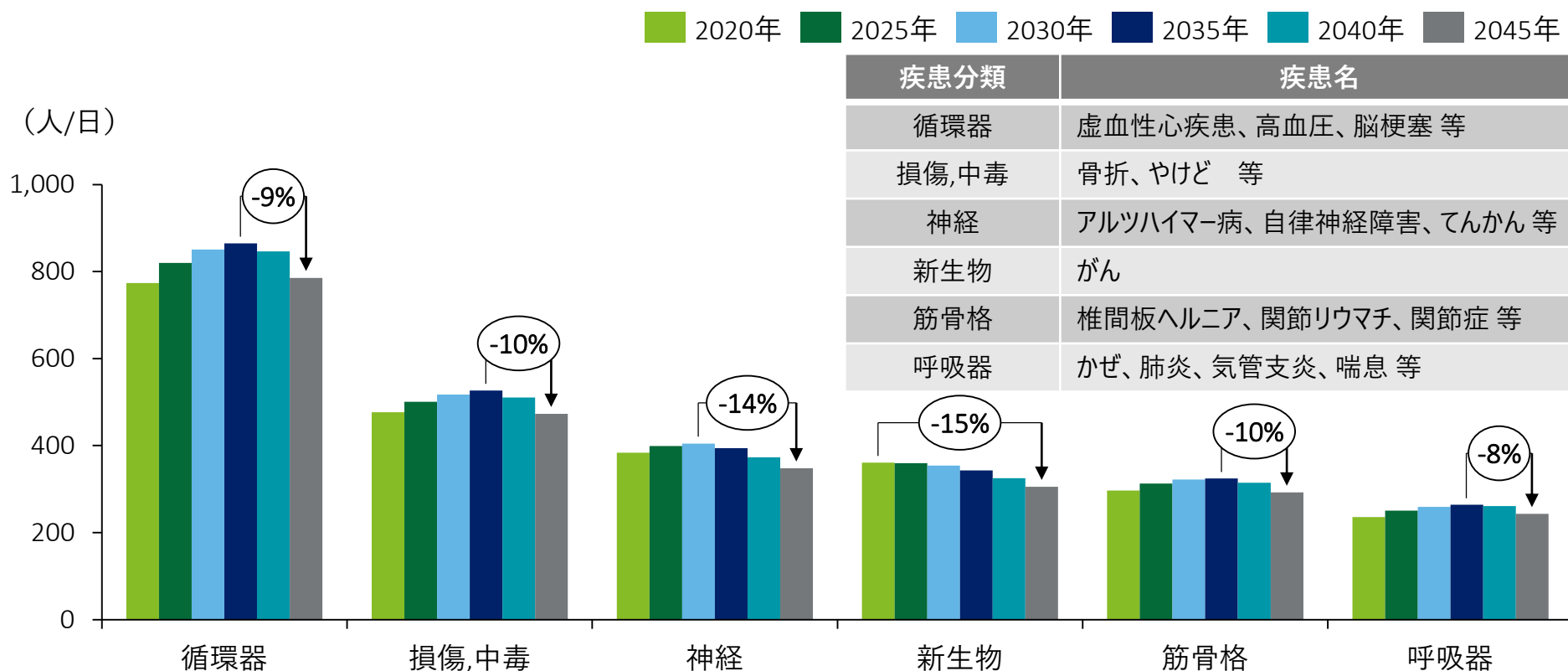


出所：下関市「国保・後期高齢者レセプトデータ（2017年度、2018年度、2019年度）」、「男女・年齢(5歳)階級別データ（2017年度、2018年度、2019年度）」、国立社会保障・人口問題研究所「男女・年齢(5歳)階級別データ」

# 主要疾患の今後の医療需要について

ほぼ全ての主要な疾患分類が2035年頃に患者数のピークを迎え、その後10年間で約10%減少、新生物(がん)については既に減少傾向で、2045年には約15%減少すると予測される

## 下関市の傷病分類別入院医療需要推計（上位6疾患分類（全体の約75%））



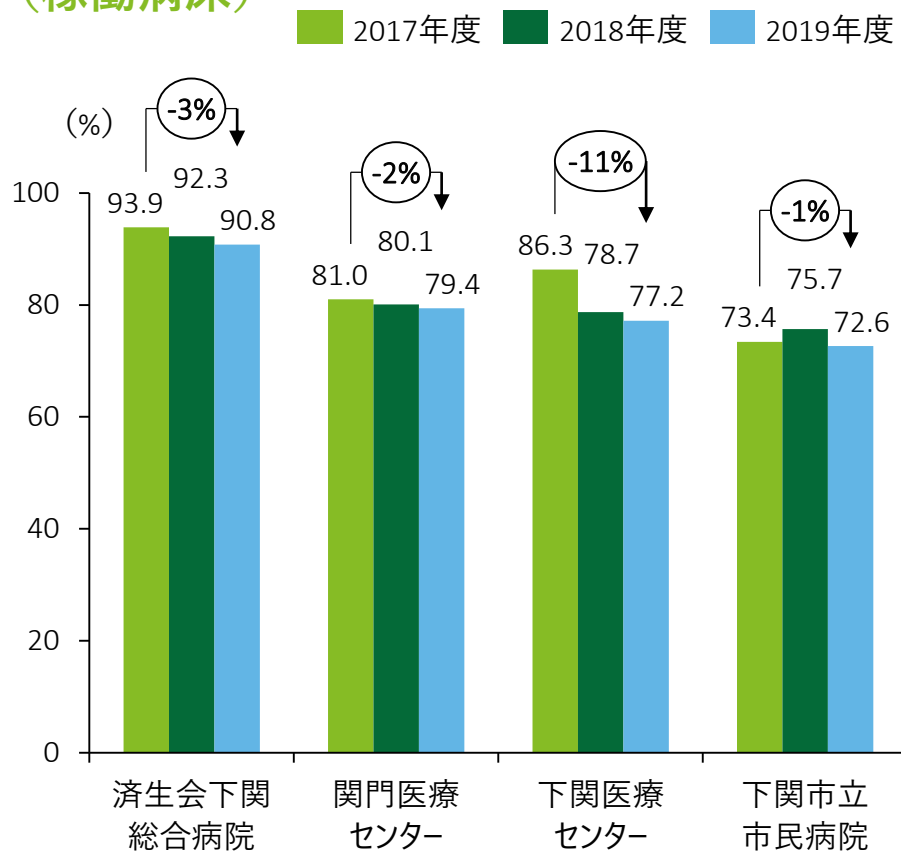
出所：下関市「国保・後期高齢者レセプトデータ（2017年度、2018年度、2019年度）」、「男女・年齢(5歳)階級別データ（2017年度、2018年度、2019年度）」、国立社会保障・人口問題研究所「男女・年齢(5歳)階級別データ」



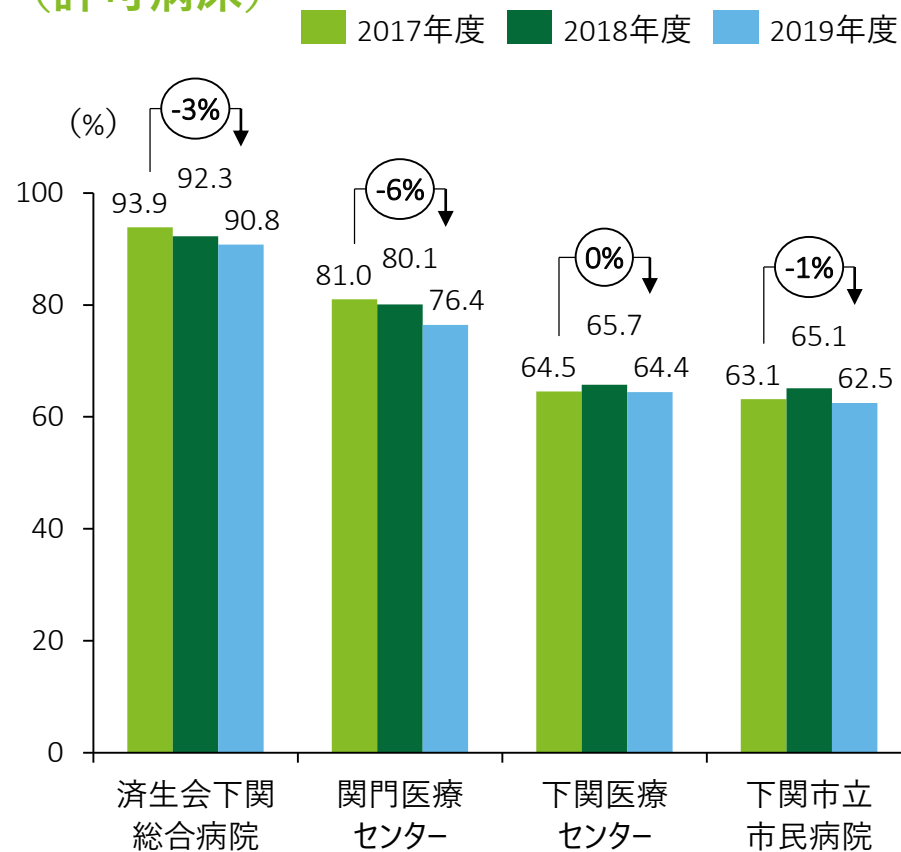
# 急性期4病院の病床稼働率の推移について

急性期4病院とも病床稼働率が減少傾向にあり、長期的な視点で見ると、医療需要の減少から、効率的な医療が提供できなくなることが予測される

下関市の急性期4病院の病床稼働率推移\*1  
(稼働病床)



下関市の急性期4病院の病床稼働率推移\*1  
(許可病床)



\*1：稼働率=在棟患者延べ数合計÷病床数合計÷365日（2019年度は366日で計算）

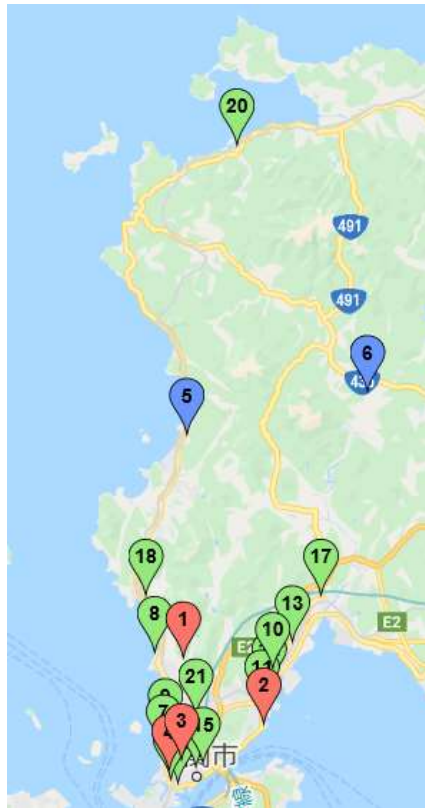
出所：山口県「平成29-令和元年度病床機能報告」

## ② 医療提供体制

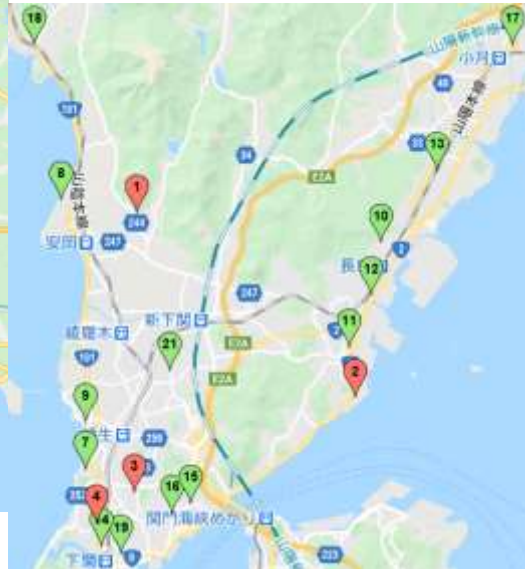
# 下関市の入院医療体制の概要について

下関市内では、旧市内に中核的な急性期4病院が集中している

## 下関市内の病院の配置状況\*1



- : 回復期・慢性期の病院
- : 郊外のケアミックス病院
- : 中心市街地の急性期病院



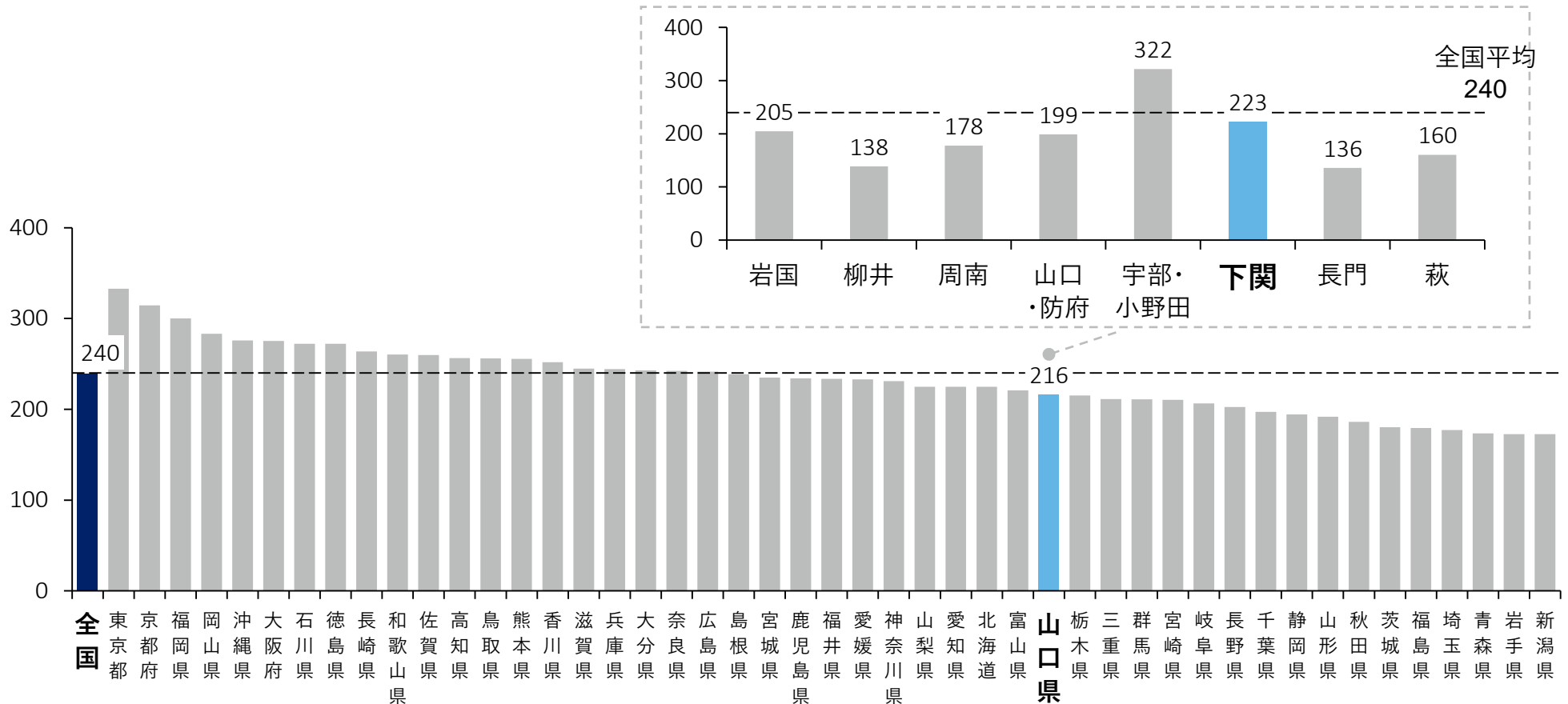
No	病院名	病床数（許可病床数）*2					合計
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	
①	済生会下関総合病院	124	249	0	0	0	373
②	NHO関門医療センター	30	267	103	0	0	400
③	下関市立市民病院	10	286	74	0	60	430
④	JCHO下関医療センター	96	142	0	0	47	285
⑤	済生会豊浦病院	0	144	45	86	0	275
⑥	下関市立豊田中央病院	0	0	60	0	11	71
⑦	昭和病院	0	0	160	178	0	338
⑧	安岡病院	0	0	106	128	0	234
⑨	武久病院	0	0	42	320	0	362
⑩	光風園病院	0	0	225	60	0	285
⑪	長府病院	0	0	0	60	0	60
⑫	豊関会記念病院	0	0	0	53	0	53
⑬	王司病院	0	0	60	117	0	177
⑭	下関リハビリテーション病院	0	0	165	0	0	165
⑮	森山病院	0	0	0	134	0	134
⑯	桃崎病院	0	0	0	128	0	128
⑰	岡病院	0	0	46	46	0	92
⑱	あずま病院	0	0	0	80	0	80
⑲	西尾病院	0	0	0	75	0	75
⑳	豊北病院	0	0	0	58	0	58
㉑	前田内科病院	0	0	0	43	0	43

\*1：精神科病院を除く、\*2：精神病床、感染症病床、結核病床を除く  
出所：山口県「令和元年度病床機能報告」、日本医師会「JMAP」

# 医師偏在指標について

下関市の医師偏在指標は、県平均を上回るものの、全国平均と比較すると下回っている

## 医師偏在指標（都道府県）



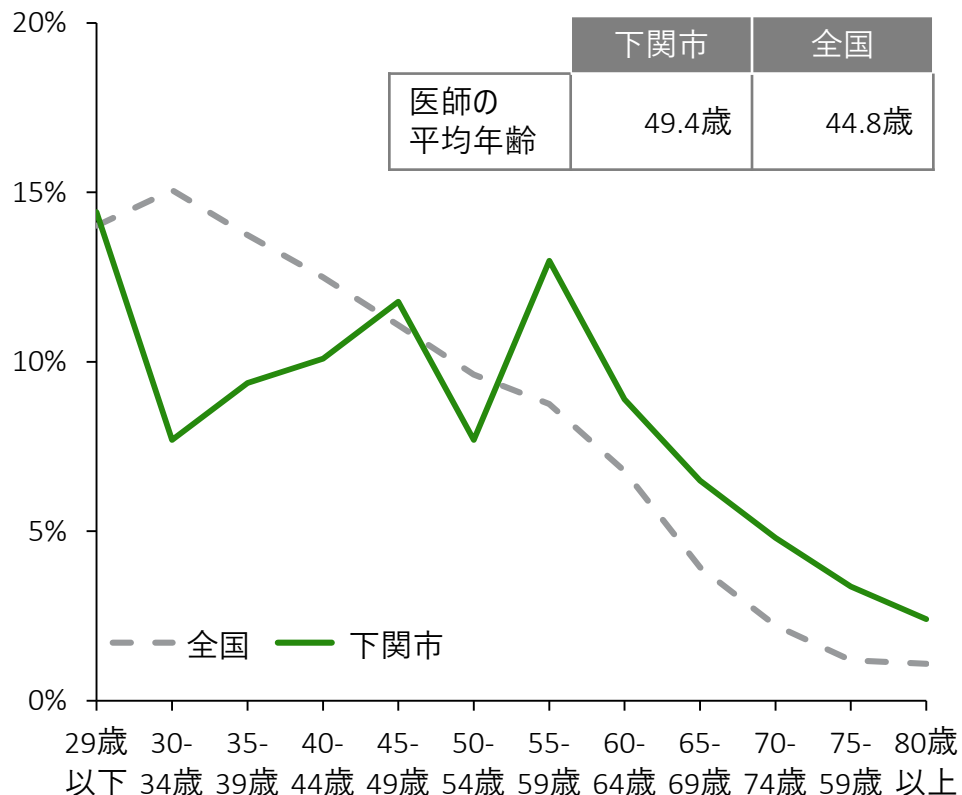
\*1 医師偏在指標：医療ニーズに基づいた医師偏在の度合いを示す指標（標準化医師数／地域の人口÷10万×地域の標準化受療率比で算出）

出所：厚生労働省「第35回医療需要分科会資料（令和2年8月31日）」

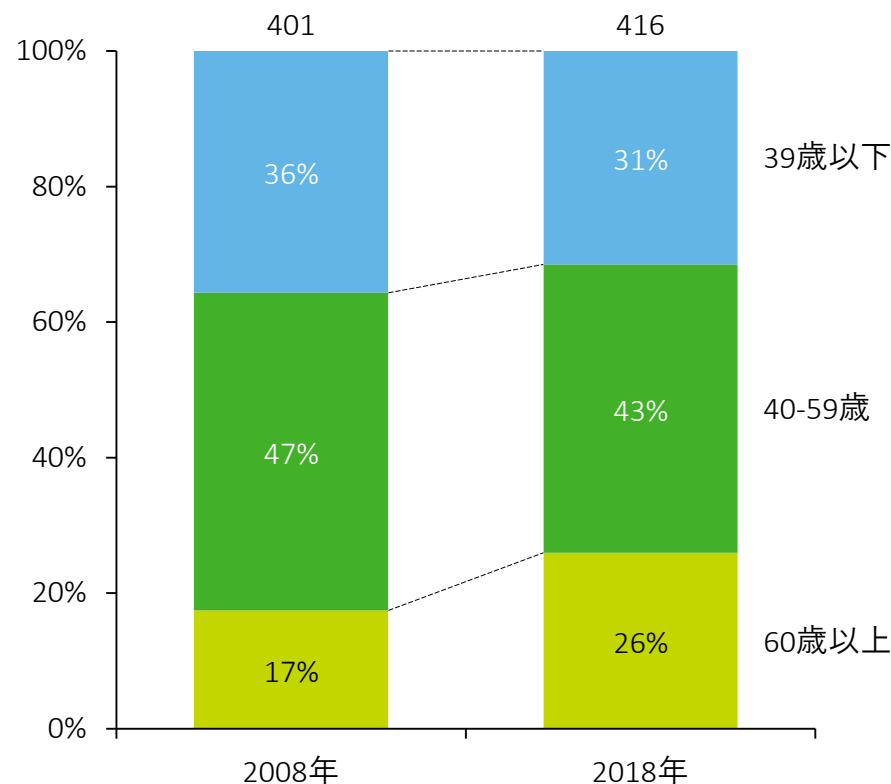
# 下関市の病院勤務医の高齢化について

下関市は若手医師の割合が低く、医師の高齢化が進んでいることから、急性期4病院での医師の確保が難しくなっている

## 病院勤務医の年齢別構成比較



## 下関市の病院勤務医の年齢層別構成の推移



出所：厚生労働省「平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査」、「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」

# 医師の働き方改革について

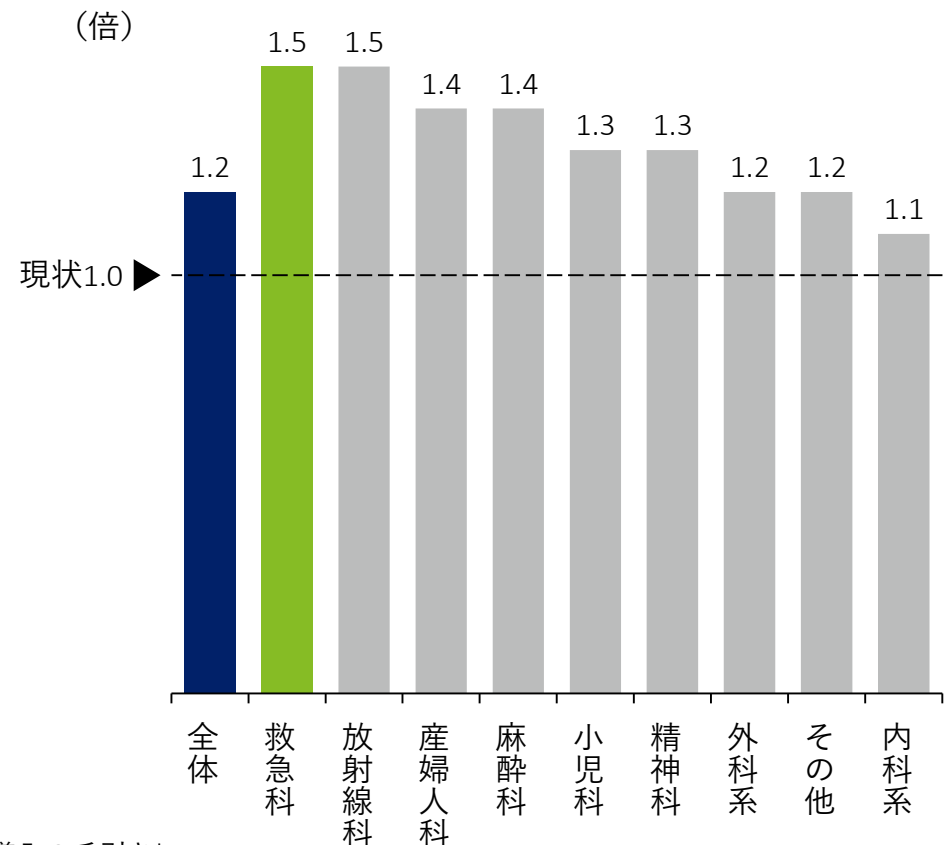
2024年には「働き方改革」として医師の労働時間上限が設けられるため、医療機能の維持にはさらなる医師の確保が求められる

## 時間外労働時間上限（2024年より適用）

対象医師	時間外労働時間上限
診療従事勤務医	年間960時間以内
	月100時間未満（例外あり）

令和元年の厚生労働省調査では、調査対象の約4割の医師が年間時間外労働時間が960時間を超えていた。

## 時間外労働時間上限規制が適用された際の必要医師数（現状との比率）



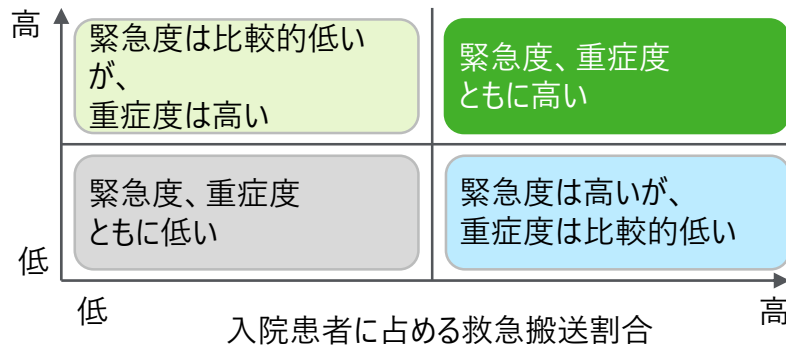
出所：厚生労働省「医師の「働き方改革」へ向けた勤務環境マネジメントシステム導入の手引き」  
全国自治体病院協議会「医師の働き方改革に関するアンケート調査結果（2019年5月）」

# 急性期病院のポジショニングについて

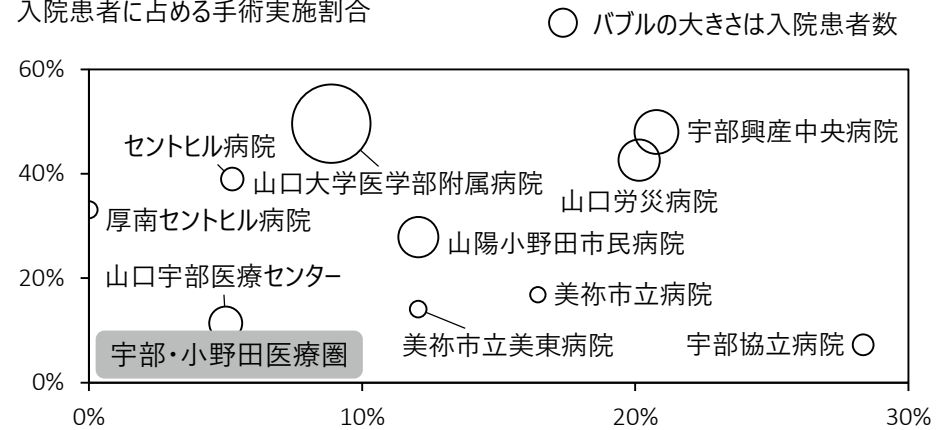
急性期4病院で患者規模や特性が類似し、医療資源が分散していると想定され、医療現場の人材不足や業務負荷の増大が起きている可能性がある

## 医療圏ごとの急性期病院のポジショニング（手術実施割合×救急搬送割合）

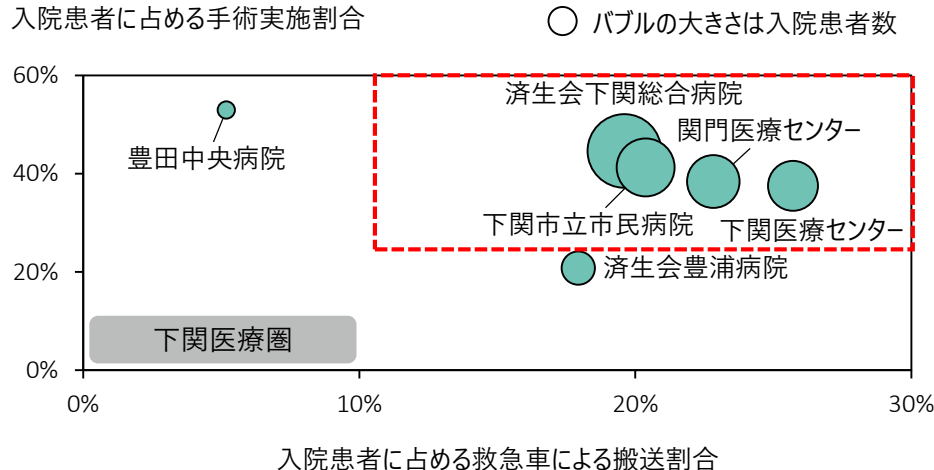
入院患者に占める手術実施割合



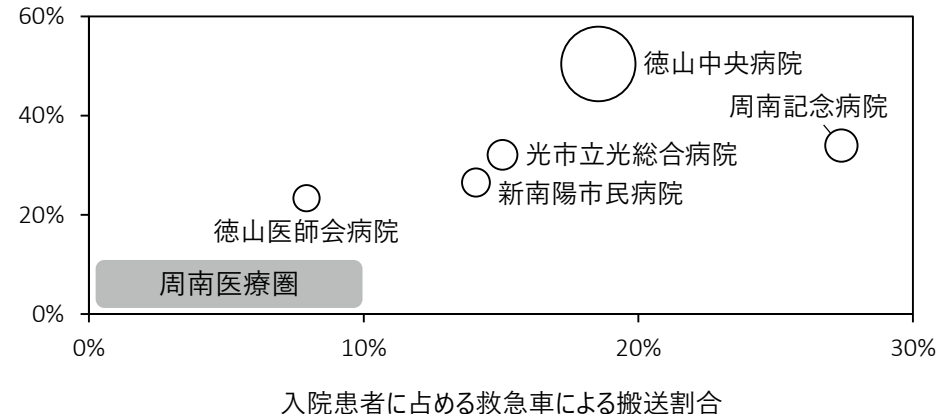
入院患者に占める手術実施割合



入院患者に占める手術実施割合



入院患者に占める手術実施割合



注) 年間の退院患者数が300人以下および救急搬送件数が0件の病院を除く

出所: 厚生労働省「DPC評価分科会 平成30年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」

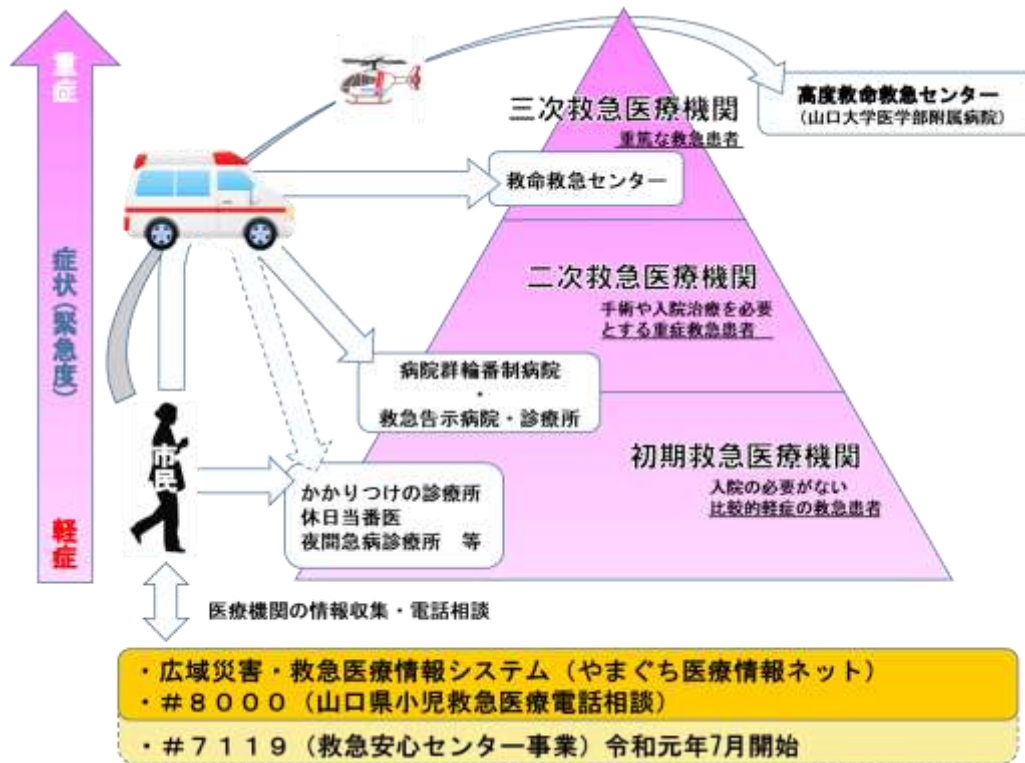
### ③ 救急医療の状況



# 下関市の救急医療体制について

下関市では軽症患者に対する初期救急医療から、重篤な患者に対する三次救急医療まで、適切な救急医療が提供できる体制の確保に努めている

## 下関市の救急医療体制



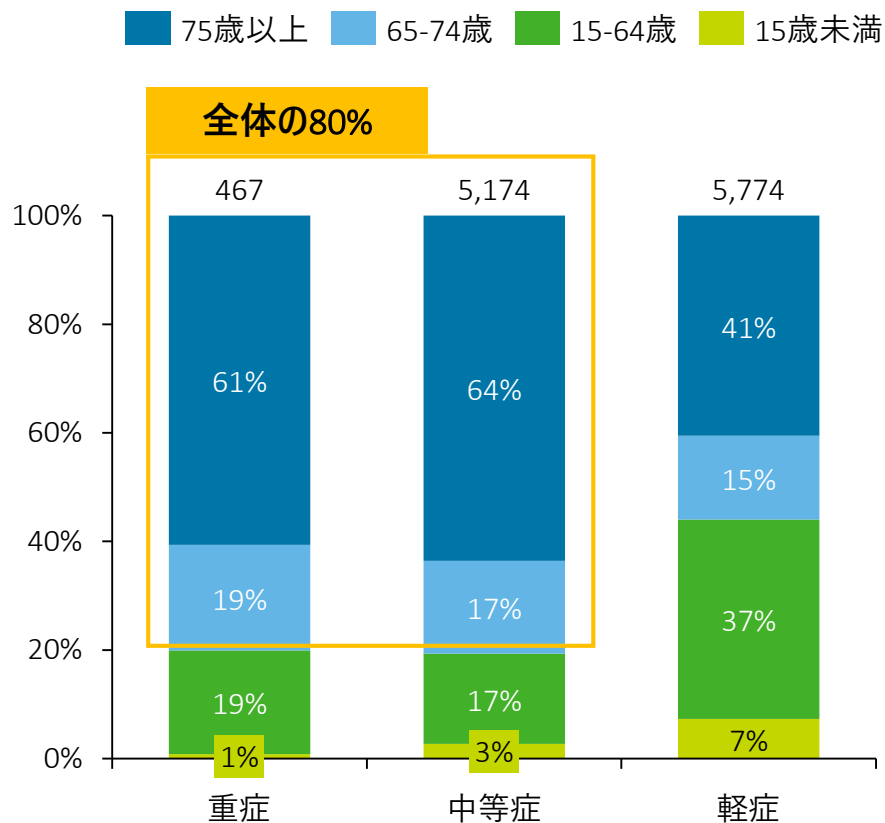
## 下関市の主な時間帯別の救急対応状況

区分		初期救急医療機関	二次救急医療機関
平日	昼間	通常診療	
	準夜帯	下関市 夜間急病診療所	病院群輪番制
	深夜	-	
休日等	昼間	休日当番制	
	準夜帯	下関市 夜間急病診療所	
	深夜	-	

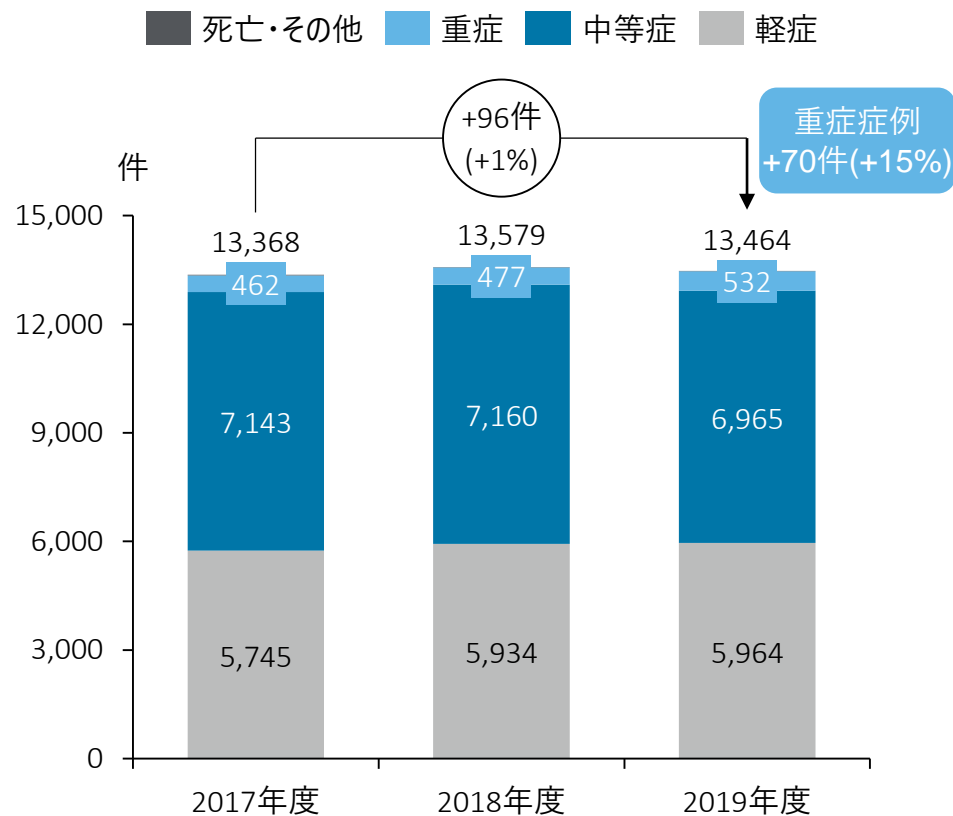
# 下関市の救急搬送の状況について①

下関市の中等症以上の搬送の8割が65歳以上となっており、高齢者人口の増加に伴い、重症の救急患者が増えると予測される

下関市の傷病程度別・年齢別救急搬送割合\*1  
(2019年度)



下関市の救急搬送件数の推移



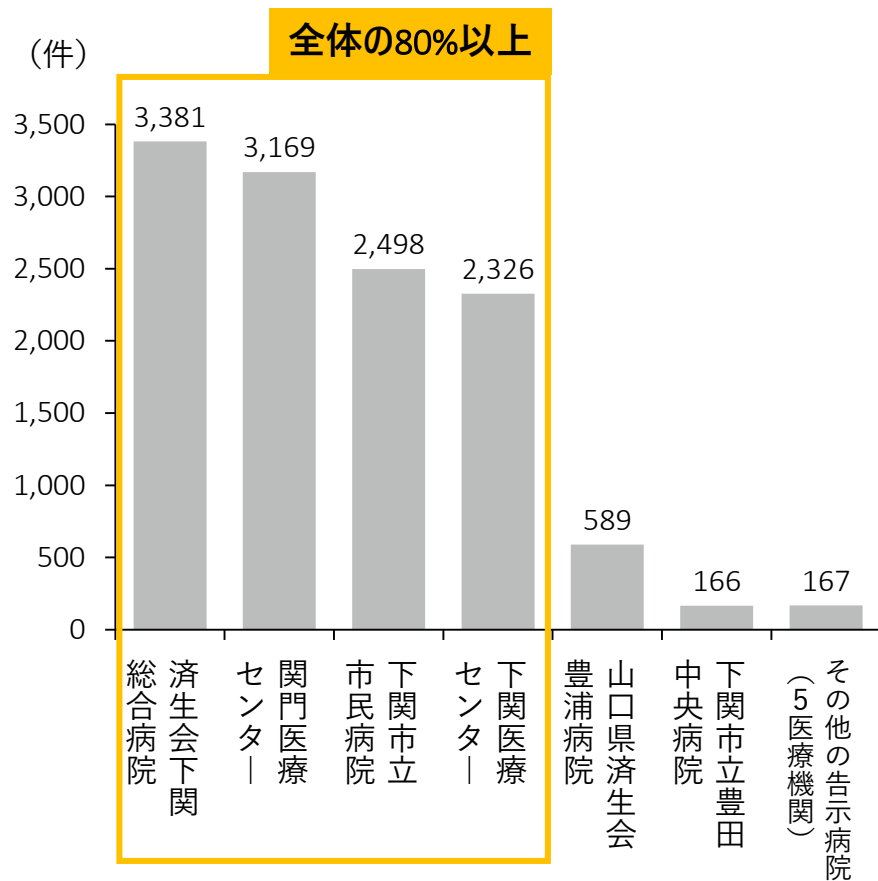
\*1：転院搬送を除く

出所：下関市消防局「救急搬送データ（平成29年4月1日～令和2年3月31日）」

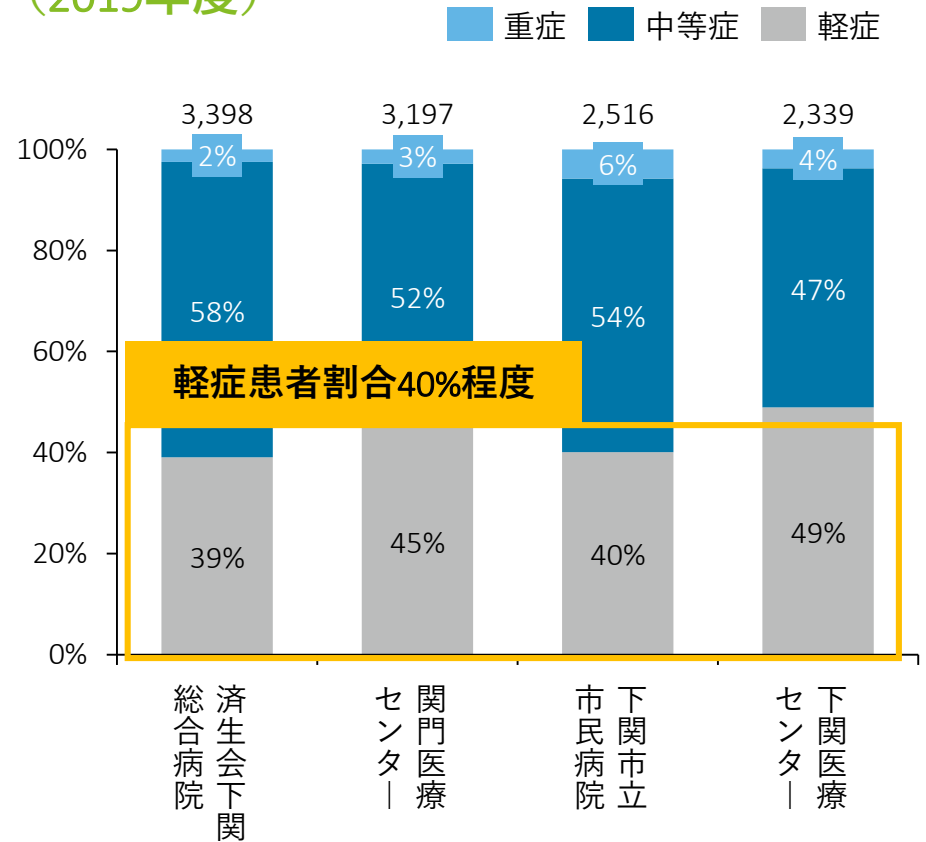
# 下関市の救急搬送の状況について②

急性期4病院が全体の80%以上の救急搬送を受入れており、軽症患者の割合も高いことから、急性期4病院への負担が大きくなっている

## 下関市の救急告示病院別救急搬送件数 (2019年度)



## 下関市の急性期4病院の重症度別搬送割合 (2019年度)

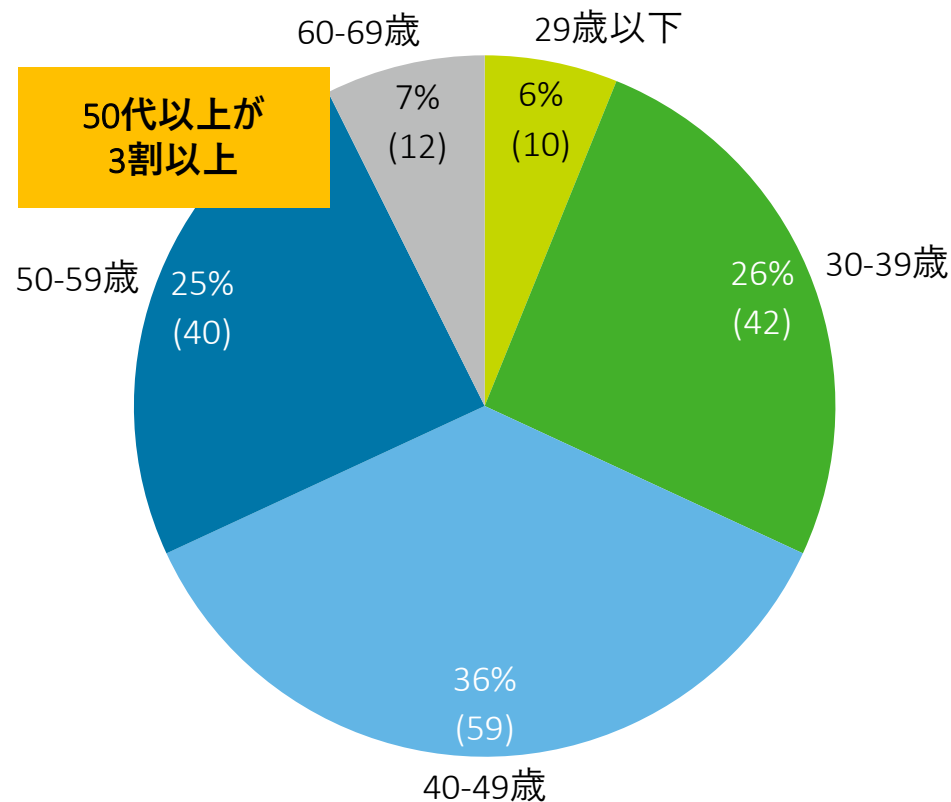


出所：下関市消防局「救急搬送データ（平成29年4月1日～令和2年3月31日）」

# 急性期 4 病院の勤務医師の当直の状況について

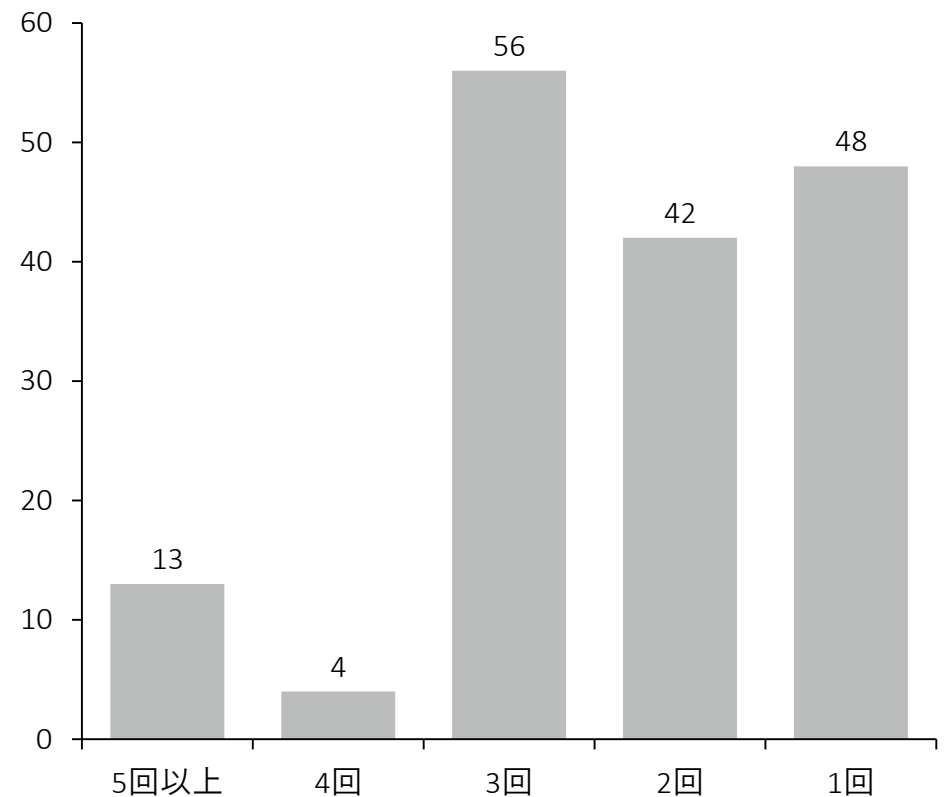
急性期4病院で当直する医師は、50代以上が3割以上を占めている

下関市の急性期4病院で当直する医師の年齢\*1



下関市の急性期4病院の医師の月あたり当直回数

単位：人



\*1： ( ) 内は医師数

出所：下関市「令和元年度下関市保健部調査」

# 下関市の救急医療を守るために必要なこと

下関の医療を支える医師の負担が年々増加し、  
救急医療の維持が困難になってきています

～救急車は本当に必要な人のために使いましょう～

～かかりつけ医を持ち、少しでも体調変化があれば平日昼間に受診をするようにしましょう～

## ④ 下関市の医療の現状まとめ

# 下関市の医療の現状まとめ

下関医療圏の概観	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 下関市の現在の病床数と、地域医療構想における2025年の必要病床数を比較すると、全ての医療機能において必要病床数を上回っている。</li><li>✓ 下関市の入院医療については、医療需要の高い80歳以上の人口の将来推計から、2035年にピークを迎え、その後減少していくことが予測される。</li></ul>
医療提供体制	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 下関市の医師偏在指標は全国平均を下回っており、病院勤務医師の高齢化が進んでいるため、将来にわたる持続的な地域医療提供体制の確保に向け、引き続き、必要な医師の確保に取り組むことが求められる。</li><li>✓ 急性期4病院で患者規模や特性が類似しており、医療資源が分散が医療現場の人材不足や業務負荷の増大の要因となっていると推察される。</li></ul>
救急医療体制	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 下関市の中等症以上の搬送の8割が65歳以上となっており、高齢者の人口増加に伴い、重症の救急患者が増えると予測される。</li><li>✓ 急性期4病院が全体の80%以上の救急搬送を受入れており、軽症患者の割合も高いことから、4病院への負担が大きくなっている。</li><li>✓ 下関の医療を支える医師の負担が年々増加し、病院に勤務する医師の高齢化が進んでいることから、救急医療の維持が困難になってきている。</li></ul>

# 下関市の新型コロナウイルス感染症の状況と ワクチンについて

(令和3年3月5日現在)



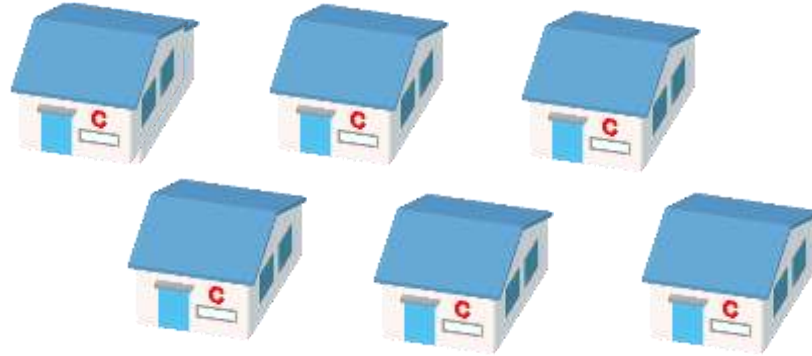
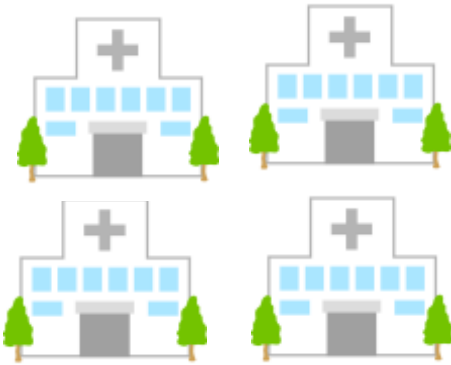
# 下関市のCOVID-19療養者数推移 (11/1~2/28)

下関市における発生数と療養者数の推移(11/1~2/28)



# COVID-19に対する下関市の医療提供体制

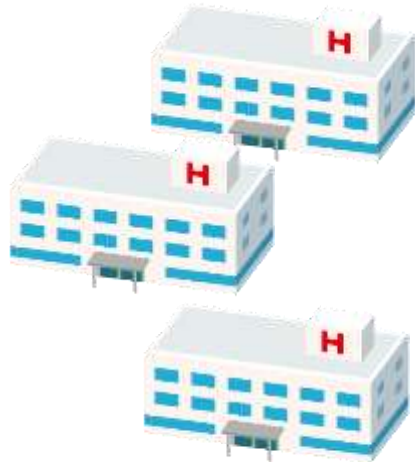
## 外来



帰国者・接触者外来（4）身近なクリニック等で検査が可能  
→中等症以上の患者

発熱外来  
（地域外来・検査センター）

## 入院病床



重点医療機関（1）  
（感染症指定医療機関）

入院協力医療機関（3）

確保病床：6 → 128床

- ・重症 8床
- ・中等症等 120床

本市のピーク時における推計療養者数  
➤ 総数80人、入院57人、重症者8人

令和2年6月19日厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡をもとに推計。高齢者群中心モデル、R1.7相当、協力要請タイミング：基準日から3日とした。



宿泊療養施設  
※最大70名程度  
3/16～（予定）

# 新型コロナウイルスワクチンについて

首相官邸HP 新型コロナウイルスワクチンについて (R3.2.19 現在) をもとに  
下関市保健部で作成



【首相官邸HP】  
新型コロナウイルス  
ワクチンについて



## ○ 発症を防ぐ効果が認められています。

- ✓ 2回の接種によって、**95%の有効性**で、発熱やせきなどの症状が出ること（発症）を防ぐ効果が認められています。（※インフルエンザワクチンの有効性は約40～60%）

## ○ あなたご自身のためだけでなく、医療機関の負担を減らすための重要な手段にもなります。

- ✓ 多くの方に接種を受けて頂くことにより、**重症者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待**されます。

## ○ どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。

- ✓ 一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、**接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。**治療を要したり、障害が残るほどの副反応は、極めて稀ではあるものの、ゼロではありません。
- ✓ アナフィラキシーの発生頻度は、市販後米国で100万人に5人程度と報告されています。

# 新型コロナウイルスワクチン接種について①

## ○対象：16歳以上

- ※ファイザー社のワクチン。
- ※接種は強制ではありません。



## ○接種費用：無料

- ※予約金なども必要ありません。

## ○接種回数：2回

- ※ファイザー社のワクチンでは、通常、1回目の接種から3週間後に2回目の接種を受けます。1回目から3週間を超えた場合には、出来るだけ早く2回目の接種を受けてください。

## ○接種優先順位

- ① 医療従事者等（2月より開始）
- ② 高齢者（令和3年度中に65歳以上に達する方）
- ③ 基礎疾患を有する方や高齢者施設等で従事されている方
- ④ それ以外の方

## ○接種場所の原則と例外

### 【原則】

住民票所在地の市町村に所在する医療機関等で接種を受けることが原則。



### 【例外】

やむを得ない事情による場合には、例外的に住民票所在地以外でワクチン接種を受けることが可能。

### ※やむを得ない事情で住民票所在地以外に長期滞在している方の例

#### 市町村への申請が必要

- 出産のために里帰りしている妊婦
- 遠隔地へ下宿している学生
- 単身赴任者 等

#### 市町村への申請が不要

- 入院、入所者
- 基礎疾患を持つ者が主治医の下で接種する場合
- 災害による被害にあった者 等

# 新型コロナウイルスワクチン接種について②

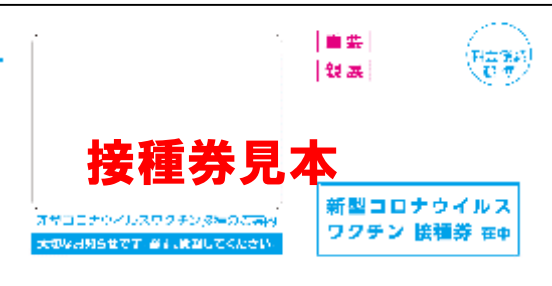
## ○接種方法 ※要予約

医療機関での接種のほか、市が設ける会場での集団接種も行う予定です。

※接種可能な医療機関、集団接種日時・会場、予約方法などは決定次第、市報しものせきや市ホームページでお知らせいたします。

## ○接種券

65歳以上の方から3月下旬（予定）より順次、接種券を送付し、4月中旬（予定）から接種を開始していく予定です。そのほかの年齢の方につきましては、順次ご案内します。



※接種の際に必要です。大切に保管しておいてください。

## ○スケジュール（※）

R3年3月5日現在

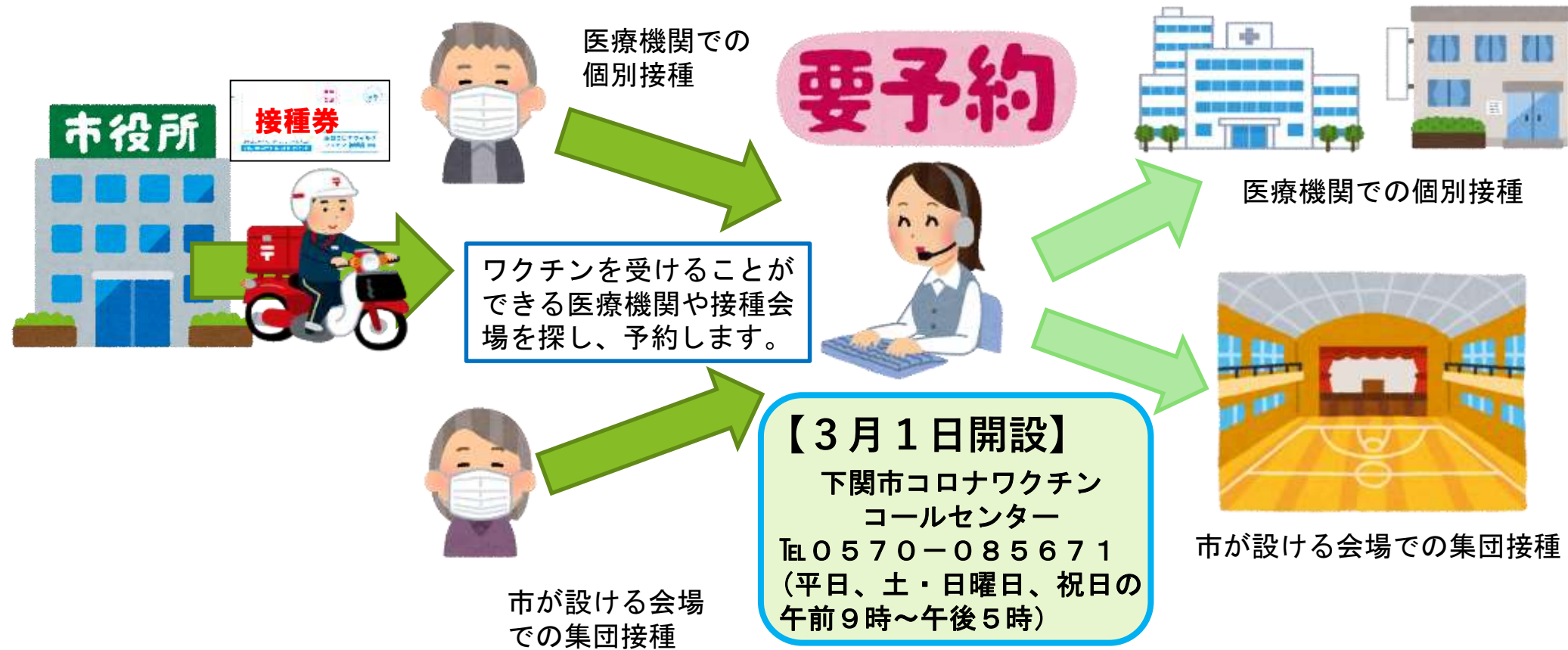
	3月下旬～	4月～
65歳以上の方	接種券配付予定	65歳以上の方の接種
そのほかの年齢の方		接種券配付 基礎疾患をお持ちの方の接種 高齢者施設従事者等の接種 ※上記以外の方の接種

※ワクチンの供給状況等により、大きく変動する可能性があります。

【3月1日開設】下関市コロナワクチンコールセンター

TEL 0570-085671（毎日 午前9時～午後5時）

# 新型コロナウイルスワクチン接種の流れ



市からワクチン「接種券」を郵送します。65歳以上の方から3月下旬（予定）より順次、送付します。接種が開始するまで、大切に保管しておいてください。その他の年齢の方は順次ご案内します。

接種の際には、市より郵送される「接種券」と「本人確認書類（運転免許証、健康保険証など）」を必ずお持ちください。

「接種券」

